

おお大勝利

平成 21 年度山東サッカー部報第 18 号 (9 月 25 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Yリーグ 終盤の大失速

5 連休シルバーウィークの中日 21 日 (月) と 23 日 (水)、Yリーグの 13 節、14 節が天童第 2 運動広場で行われました。21 日の山東の相手は山形商業。山商は Yリーグで苦戦を強いられていたり地区新人でまさかの敗北を喫するなど、今期調子を落としているものの、元来、力のあるチーム。山東はその日の試合後、保護者会主催の県総体・選手権激励会を予定しており、祝杯を上げるためにも、必勝を期して試合に臨みました (もちろん顧問のもくろみです)。ここ数年、公式戦の後に激励会をさせていただいているのですが、激励会前の公式戦で連勝が続いていたため、勝手に**激励会の日の公式戦は勝つ**というジンクスを作って、信じていました。そんな考えは単なる甘さだとも気づかずに……。

試合は序盤山商ペース。地区新人での山商はボールを保持する際に中盤での切り返しが多かったのですが、この日はシンプルにプレー。もともと技術の高い選手がそろっているだけに、そうしたテキパキとしたプレーは脅威。山東もサイドバックの攻撃参加が見られるようになるなど、徐々にサイドからリズムを作り出す。**前日、モンテ・サテライト新潟戦の運営に協力した際に、モンテが繰り返していた攻撃パターン**。頭にその残像があるうちにとばかりに、サイドを駆け上がる山東サイドバック。少しずつ押し気味になり、相手ディフェンスラインを抜け出した FW が GK をも抜くプレーが飛び出す。しかし無人のゴールに向かって放たれたシュートはサイドネットへ。その後も右サイドハーフの**大久保**の素晴らしいグラウンダークロス (地を這うクロス) があり、決定的シーンを迎えるも決めきれず。「こういうことがあると流れは敵に傾くんだよな～」などとベンチで話していた前半の終盤、ペナルティエリアのライン手前辺りで、**直弘**がルーズボールを叩く。それが HP にもありますように弾丸ミドルシュートとなり、左隅に決まる先制ゴールとなる。前半を 1-0 で折り返す。

後半は早々から山東がチャンスを迎える。主に左サイドから 2、3 本形の良いシュートを放つが、決めきれず。良い出足だけに、後半も優勢に試合を進めることを期待させる。しかし！徐々に山東のプレスが効かなくなり、また MF と DF の間 (バイタルエリア) が空いてくると、そこを見事に突き始める山商。山商の FW はバイタルエリアの使い方がうまいのです。バイタルエリアでボールを保持し、フリーでドリブルをすることが多くなってきた山商の攻撃陣。山東はドリブルを抑えることができず、悪い時間を迎える。するとその攻撃パターンから、同点シュートを決められ、すぐに逆転シュートも決められる。最悪の展開。その後、敵の GK と DF がルーズボールの処理に手間取っている隙に、松永がボールをかつさらい、再び無人のゴールにシュート。今度は決まり、ラッキーな同点劇。しかし**山東のプレスがかからない状態は変えることができず**、再び突き放され、逆

転（2-3）。終盤は最後の猛攻を仕掛けようとするも、ゴール前での工夫が足りないのと足が止まったのとで、元気は空回り。ジंकスを破る敗戦となりました。

夕方からはOB5名に来ていただいた激励会。もちろん予定通り開催されましたが、**敗戦の後だけに、疲れを癒すビールが苦く感じられました**。保護者会長山川さんは、ラグビーの名監督清宮さんを引き合いに出しながら、勝利に向かう山東サッカー部の姿勢についてお話され、そのお話の説得力に一同感心。清野 OB 会長は concentrate、focus などの外国語を交えながら、1 試合通した集中力の大切さを説き、その教養の深さにまたもや一同感心。選手一人一人の決意表明の後、千葉夫妻のエールで中締め。**お父さんの声を1とするとお母さんの声は2**のエールは、千葉貴大君をはじめとする選手・顧問の心に響き渡りました。**千葉さん、来春もよろしくお祈いします**。そして 23 日 Y リーグ最終節日大戦の健闘を期待して、お開きとなりました。

23 日はすでに前節で Y リーグ 1 部優勝を決めている日大山形。日大は 11 月に羽黒高校との「Y リーグ 1 部-プリンスリーグ 2 部」の入れ替え戦に臨む。日大には Y リーグでも地区新人でも、一敗地にまみれており、今度こそ勝ちたいという気持ちがある。特に Y リーグで鶴工戦、山商戦と連敗しており、選手権前に悪い流れを断ち切る意味でも勝利が欲しい。試合前は「日大にはいつも CK からやられているので、今日は逆に CK で点を取ろう」と声をかけました。試合が始まると、日大のプレスにじりじり押されながらも、決定的シーンは作らせないしぶとい立ち上がりを見せる。攻撃でも厚みのある攻めではないものの、まずまずの出来。特に**斜めの方向へのドリブル**が効果的で、日大を崩すまでは行かないまでも、ほつれを見出す程度の展開にはなっている。そうした中、山東が CK を得る。逆サイドで飛び込めばチャンスかも、などとベンチで話をしていたら、ボールはニアへ鋭いボール。あまり期待していないで見ていると、ニアに飛び込んだ**藤盛**が頭でボールを思い切り叩き、GK の足元を狙った基本通りのヘディングシュートを決める。期待通りの CK での得点に沸き立つ山東。前半を 1-0 で折り返す。

後半はチャンピオンチーム日大の猛攻をただひたすらしのぐ展開。今年の日大は後方からロングボールを入れるだけでなく、相手を押し込んでから敵ゴール前でもドリブル、パスの選択を冷静にすることができ、攻めが途切れない。山東 DF は 1 対 1 でなかなか勝つことができないため、常にマッチアップで後手を踏んでいる。クリアボールを拾うこともできないため、終始守備に回らざるを得ない状況。日大は消化試合ながらまったく緩むことなく、**目の前の試合、目の前の敵との勝負に徹する**ことができる。**こうした強烈な負けず嫌いのメンタリティがあるから 1 位になった**んでしょうね（見習ってほしい！）。結局 3 点ぶち込まれ、1-3 で試合終了。日大の強さ、山東のひ弱さを実感させられる試合をもって、今期の Y リーグは終了となりました。

Y リーグでの順位は結局、日大、東海に続く 3 位となりました。昨年から比べれば好成績といえますが、終盤 3 連敗を喫する失速に、失望を禁じえません。ただ、試合数が倍増したリーグ戦を戦いながら、攻撃、守備の課題が徐々に見えてきたのも事実。この成果をまずは選手権でぶつきたいと思います。今期の Y リーグでの応援、ありがとうございました。選手権での応援、よろしくお祈いいたします。

10月11日(日) 選手権 2 回戦 VS 酒北-長井工の勝者 於:山形中央 11時キックオフ

10月12日(月) 選手権 3 回戦 VS 長井 or 山添 or 学院 or 米東 於:山商 11時キックオフ

初戦勝ちますと